

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200034		
法人名	株式会社共寿		
事業所名	グループホーム木曾三川「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江629-1		
自己評価作成日	平成25年11月26日	評価結果市町村受理日	平成26年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&li_gyosyoCd=2192200034-00&PrEfCd=21&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成26年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が各自の力を維持できるよう、ご家族にも協力していただきながら、日々の生活の中で楽しみや、やる気を見出ししてもらえるよう支援している。気軽に面会に来ていただける雰囲気作りや、その都度、利用者様の暮らしぶりを報告できるよう心がけている。面会がスムーズにできないご家族の場合には、橋渡しやワンクッションになれるよう、役割をスタッフも認識し、努めている。ご家族のご意見やご要望は真摯に受け止め、次に繋げるよう取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一法人のデイサービスと3つのグループホームが隣接しているため地域への参画は共同で実施している。年3回、地域のスーパーや公共施設で、隣接の事業所と一緒に「介護何でも相談会」の開催や地域のダンボールやペットボトル回収にも参加している。
事業所は、笑顔で挨拶・お出迎えができることを目標にしている。利用者のライフスタイルに合わせながら、お互いの長所や短所を認め合い、皆と一緒に同じ時間を共有し、楽しめるグループホームを目指している。センター方式に倣って様式を工夫し、利用者の介護情報の収集、計画の作成、モニタリングを職員全員で進めている。ユニット毎に、月に1度の外食・外出を計画して利用者が楽しめるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（東ユニット）

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議の中で理念の唱和を行っている。また、理念に添ったケアができていないかの自己チェックを行い、個人面談の中でも理念の共有を図っている。	全職員にアンケートを行い、理念について意識し実践できているか調査を行っている。また、個人面接を通して、地域と関わりその人らしく生きるための支援についての共有を図り、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	小学校や保育園の行事への参加や保育園児や近隣の託児所の子供たちの訪問。住民の方から野菜をいただいたりと地域と関わりがもてるよう努めている。	自治会に加入し、地域の情報を得ながら利用者と一緒に保育園や小学校の運動会、ダンボールやペットボトル回収等の地域行事に参加している。年3回、地域のスーパーや公共施設で、「介護何でも相談会」を開催し、相談や支援の方法のアドバイスを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のスーパーや公共施設に出向き「介護何でも相談会」を開催し、相談や支援の方法のアドバイスを行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、近隣事業所合同で会議を行っている。外部評価の結果を報告し、参加された方からのアドバイスやご意見をいただいた。	近隣の3事業所合同で開催し、後半は事業所ごとに分かれて意見を交換している。事業所のサービスの報告や地域と事業所の行事の開催方法等を討議し、意見をもらってサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、ケアサービスの取り組み状況も理解していただいている。利用者情報リストを作成し定期的に提出し、空床状況もお伝えしている。	事業所は市のケアマネ連絡会、法改正や他事業所説明会への参加、サービス状況の報告、提出資料についての相談を市に出向き、担当者として協力関係を築こうとしている。しかし、市町村から運営推進会議以外に事業所に対して関わりが少ない。	事業所で取り組みたい事項や、その取り組み方等について相談し、事業所の行事などにも出席してもらえよう積極的に働きかけることを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関は開放しており、身体拘束に対する勉強会を行ない、理解の徹底と拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	身体拘束・虐待など外部研修会の資料をもとに計画的に勉強会を行っている。タイムカード脇に禁句表を掲示し、言葉による拘束をしないよう互いに注意し合っている。日中、玄関の鍵はかけないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する勉強会を行っている。自己のケアを振り返るため自己チェックを行ったり、日頃よりお互いが注意し合える環境作りにも努めている。		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、職員の理解を深めるようにしている。現在、左記の制度を必要とするケースはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約の際は何に対して不安を持ってみえるかということに配慮しながら、それぞれの立場に立って説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃よりご家族が来苑しやすく、意見を言いやすい関係作りを心がけている。ご家族アンケートを実施し、その後のケアに反映できるよう努めている。	家族の訪問時に極力意見や要望を聞いている。年に1回、ケア、外出支援、言葉使い等に関する家族アンケートを行っている。意見や要望にそって、2014年から日曜日に運営推進会議開催を実現した。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や個人面談の際に職員の意見や提案を聞いたり、日頃からコミュニケーションを図るようにし、意見を言いやすい環境作りを心がけている。	管理者は職員の様子に変化を感じるとコミュニケーションをとり、意見や提案が言い易いようにしている。年2回の職員面談や全体会議で職員の意見や提案を受け付け、センサーマットの購入や口腔ケア時の舌苔除去用歯ブラシを利用する提案等が採用された。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の家庭環境や体調に配慮し、働きやすい勤務体制作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修の年間計画を立て実施している。新入職員にはプリセプターを付けて期間毎に評価と面談を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1回トップマネジメント会議の中で、管理者の質の向上を目指し、勉強会を実施したり、市内のケアマネ連絡会に参加し、ネットワーク作りや研修を受けたりしている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に「その方らしく暮らしていただくための情報シート」を安心して御利用いただくために活用している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時も含め困っていることや不安なことがあった時は、いつでも連絡いただけるような関係作りに努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の思いをしっかりと把握できるよう、信頼関係の構築に努め施設としてできることを柔軟に対応するよう努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らし慣れた家を離れて施設で生活するこへの不安や寂しさを十分理解する姿勢、傾聴することを念頭におき関わっている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所されても家族は家族であり、ご本人にとっての大切な存在であるため、職員と共にご本人を支えていこうという姿勢でいる。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前から利用されていた床屋の利用やかかりつけ医の通院等、ご家族の協力もあり、関係が途切れないよう支援に努めている。	馴染みの人や場の情報を「情報シート」に記録して把握に努めている。家族と外出の際には、馴染みの人に会ったり、馴染みの場所に行ってもらっている。受診の際には、自宅を訪問したり、馴染みの人が隣接のデイサービスの利用の際には、会えるよう支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った利用者同士で散歩や喫茶店へ行ったり、またユニット間を利用者様同士が行きかいながら、関わり合えるよう場面作りの支援をしている。		

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が解除になっても、再度、入所申し込みをしていただき、また、スムーズにご利用いただけるよう経過の把握と必要に応じた支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、注意深く観察することにより、一人ひとりの利用者様の思いを汲み取り、ご家族からの情報を得ることで本人様本位のケアができるよう努めている。	その日の気分やタイミングを見ながら入浴時、テレビを見ている時、夜勤時等、2人になった時に声掛けして利用者の意向を積極的に聞いている。伝えられない利用者には、答えやすい問いかけをして表情やしぐさを見ながら意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やご家族より、生活歴やご本人の価値観の理解に努め、入所生活の中に反映させるよう話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの身体状況や、生活の様子を記録し、関わる職員が現状を共有し、把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、全利用者様のモニタリングを行い、ケース会議の中では、積極的に意見やアイデアを出し、ご本人やご家族にも相談しながら現状に即した計画を作成している。	センター方式を活用して情報を収集し、家族や医師の意見を聞いて介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、利用者のサービス満足度を評価し、利用者毎の担当者の意見をもとに全員で作成している。新たな問題や状態に変化があればその都度見直し変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務交代毎に申し送りの中で利用者様の現状に適したケア方法を話し合い実践している。月に一度行うモニタリングによって、現状に即した計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や一ヶ月以上の入院による契約延長への配慮等ご本人やご家族の要望・相談には柔軟な対応を行っている。		

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区社会福祉協議会の構成メンバーに入れていただき、小学校をはじめ、民生委員や市社協の方々とパイプラインを持つことで行事への参加もしやすくなった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時や新規受診時には、必ず希望の医師を確認している。現状に適した医療が受けられるようご家族や医療機関との連携を密に図っている。	かかりつけ医の受診は家族が対応している。受診する際には、看護師が利用者の現状を記したものを家族に渡し、受診後には結果を確認し、協力医にも伝えている。職員が代行した場合には、家族に結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で心身の状況をしっかり観察し、変調があった際には些細な事でも報告。対応ができるよう近隣施設の看護師とも連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より病院関係者との良好な関係作りに努めており、入院中の利用者の情報交換や相談、早期退院へのアプローチを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より施設の終末期に向けた方針を説明し、状況に応じてご本人やご家族と話し合いながら支援している。	利用者が重度化した場合には、主治医、家族と相談しながら看取りまで対応する方針である。看取りの事例はないが、看取りのための勉強会を計画的に実施している。隣接事業所と協力して緊急時の対応を含めて、看護師との相互援助体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、勉強会や蘇生訓練を実施している。いざという時に迅速に対応できるようマニュアルや連絡網を作成し設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署の指導の下、火災・避難訓練を実施している。設備点検やコンセンートの掃除等、防災意識を持って取り組んでいる。運営推進会議時は地域の協力体制を呼びかけている。	避難訓練、夜間想定訓練を運営推進会議の後に、地域の参加が得られるよう計画的に実施している。近隣病院と話し合い避難場所の協力体制も築いている。しかし、災害の種類に応じた対応は実施されていない。	災害対策は、種類(火災、水害、地震)、発生時期(昼間、夜間、冬季、夏季)、規模(大、中、小)、継続期間(長、短)の組み合わせが考えられるので、それに従って対策を検討されることを期待したい。

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを大切にし、言葉掛けに注意している。また、人生の先輩として尊敬の気持ちで接することを心がけている。	職員は、利用者に尊敬の気持ちを持って、言葉のかけ方や態度など馴れ馴れしくならないように接している。入浴や排泄時にはカーテンやドアが開け放しにならないよう注意している。入居時には写真、表札等の使用の可否の確認もとっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各々、利用者様に合わせた声掛け、表情や反応を注意深く見守り、自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のコンディションなど様子をみながら、ご本人の希望を尋ねたり、相談しながら過ごしていただいている。イベントは事前に伝え参加の意思を確認し強制せず、ご本人の意思を優先し対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪に関しては各利用者の要望に応じ、地域の美容師さんに来苑してもらっている。着替えは生活にリズムと張りをもたらすので、好きな色や柄そして、安全で癒しのあるものを選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時にご家族に嗜好調査を行っており、その結果にてメニューを考慮している。不定期ではあるが各利用者様のリクエストメニューや、飲み物もお好きなものを提供できるようにしている。皮むきやお膳拭き、食器洗いなど力量に応じてお手伝いしてもらっている。	利用者と育てた旬の野菜を使い、利用者の好きな料理を献立に加えユニット毎に調理をしている。形や色どりなど目で見て楽しみ、食欲をそそるように工夫をしている。介助なしで食べることを目標にしながら支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事、摂取量及び水分量もチェックしており、状態を観察しながら、摂取量不良の方には見た目や香りで楽しめるよう工夫したり、水分摂取の回数を増やしたり、形態を変更しながら、摂取量をキープしている。義歯の装着具合もチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず実施。お一人ずつ見守りながら自立度に応じ介助している。義歯装着の方も外して実施している。口臭の強い方には洗口液を使用。歯のない方にもデンタルフロスやハブラシを使用し、舌の汚れも取っている。歯磨きの行為もリハビリと考えている。		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録にて排泄のパターンを把握し、定期的な排泄誘導と環境調整を行っている。排泄の失敗があっても自尊心を傷つけないような声掛けを行っており、パットが外せた方もいる。	リズムをつかみ、声かけをしてトイレ誘導し、他人に感づかれず落ち着いて排泄できるよう支援をしている。夜間は状況によりパットの交換やポータブルトイレを使用しその人に合わせた対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の排便習慣の確立と繊維性食品、水分補給の援助や腹部マッサージ、温電法等を施行している。運動不足の方には、散歩やリビング内での歩行も勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴するまでの声掛けとタイミングに注意し、その方のペースに合わせてゆったりとした時間をもっといただけよう支援している。拒否の強い時には、声掛けの工夫や別のスタッフが対応するなど無理強いはせず安全に気持ちよい入浴を心がけている。	個浴と機械浴があり、週3回以上の入浴ができる。入浴時には、利用者の体調や好みに応じて湯かげんを調節し、話をしながら、ゆっくりと入ってもらえるように支援している。むくみのある人には足湯を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	環境整備や州民の援助を行っている。夕方から夜にかけて穏やかに過ごしていただけるよう、日中は活動的に生活リズムを整えるよう、利用者同士、心地よく交流がもてるよう調整役をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能・副作用がわかるよう処方箋が事務所に設置しており、連絡ノートにも変更事項を記載、必要に応じ勉強会を行い周知徹底している。散剤がむせる方や拒薬傾向のある方などその方に合わせた服用方法を工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	長年愛用してきた食器、ご家族の写真など見慣れたものに囲まれた生活をもらい、カラオケ・折り紙・ラジオなどその方のお好きなもので気分転換や他の方との交流に繋げている。レクの作業に関しては出来る範囲内でお手伝いしていただきスタッフと協力し季節の作品作りをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個々にはご家族の面会時、気分転換を兼ねた外出を依頼、施設では利用者様を総合的に考え、行く先も利用者様にも希望を取り、喜ばれるような場所への外出支援を行っている。近隣施設の夏祭り、地域や保育園の運動会にも参加させてもらっている。	天気の良い日には、車椅子の利用者も一緒に、数人ずつ散歩に出かけている。家族には面会時等に、積極的に利用者と一緒に外出してもらおうよう依頼している。行事計画を作成して月1回の外食や花見等をしている。	

グループホーム木曾三川「福寿苑」

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金に関する不安や不満が生じたり、他利用者様とのトラブルが生じないよう、ご本人、ご家族と話し合い満足いただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望によ電話をとりついたり、代弁してご家族にお伝えする等、状況に応じた支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節にちなんだ壁紙作りを利用者様と共に行うことにより、季節を感じていただけるよう工夫をしている。	利用者同士で会話したりくつろげるように畳のある場所には掘りごたつがあり、壁際にはソファを配置している。レクリエーションで作成した季節を題材にした作品を壁に貼ったり、催事の飾り物を飾ったりして、季節感を感じてもらえるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにあるソファや和室コーナーの畳に座り、気の合った利用者様同士が会話されたり、一人の時間をゆったり過ごしてみえる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた物で、安心できる馴染みの品(カレンダー・写真等)を持ってきていただくよう、ご本人・ご家族と話している。	家族の写真、季節を表す自作の貼り絵や折り紙で部屋を飾り楽しめるようにしている。持ち込んだ馴染みの家具や時計等は配置を工夫して過ごし易くしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式D1、2、シートを活用し、残存機能を把握した上で、各々利用者様が安全に安心して、自立した生活が送れるよう工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192200034		
法人名	株式会社共寿		
事業所名	グループホーム木曾三川「福寿苑」		
所在地	岐阜県海津市海津町福江629-1		
自己評価作成日	平成25年11月26日	評価結果市町村受理日	平成26年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_1_2013_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2192200034-00&Pr_efCd=21&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成26年1月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果 (西ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議の中で理念の唱和を行っている。また、理念に添ったケアができていないかの自己チェックを行い、個人面談の中でも理念の共有を図っている。		
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校や保育園の行事への参加や保育園児や近隣の託児所の子供たちの訪問。住民の方から野菜をいただいたりと地域と関わりがもてるよう努めている。		
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のスーパーや公共施設に出向き「介護何でも相談会」を開催し、相談や支援の方法のアドバイスをを行った。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、近隣事業所合同で会議を行っている。外部評価の結果を報告し、参加された方からのアドバイスやご意見をいただいた。		
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、ケアサービスの取り組み状況も理解していただいている。利用者情報リストを作成し定期的に提出し、空床状況もお伝えしている。		
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、玄関は開放しており、身体拘束に対する理解の徹底を実践に取り組んでいる。		
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する勉強会を行っている。自己のケアを振り返るため自己チェックを行ったり、日頃よりお互いが注意し合える環境作りに努めている。		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、職員の理解を深めるようにしている。現在、左記の制度を必要とするケースはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約の際は何に対して不安を持ってみえるかということに配慮しながら、それぞれの立場に立って説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃よりご家族が来苑しやすく、意見を言いやすい関係作りを心がけている。ご家族アンケートを実施し、その後のケアに反映できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や個人面談の際に職員の意見や提案を聞いたり、日頃からコミュニケーションを図るようにし、意見を言いやすい環境作りを心がけている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の家庭環境や体調に配慮し、働きやすい勤務体制作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修の年間計画を立て実施している。新入職員にはプリセプターを付けて期間毎に評価と面談を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1回トップマネジメント会議の中で、管理者の質の向上を目指し、勉強会を実施したり、市内のケアマネ連絡会に参加し、ネットワーク作りや研修を受けたりしている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に「その方らしく暮らしていただくための情報シート」を安心して御利用いただくために活用している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談時も含め困っていることや不安なことがあった時は、いつでも連絡いただけるような関係作りに努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の思いをしっかりと把握できるよう、信頼関係の構築に努め施設としてできることを柔軟に対応するよう努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らし慣れた家を離れて施設で生活することへの不安や寂しさを十分理解する姿勢、傾聴することを念頭におき関わっている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所されても家族は家族であり、ご本人にとっての大切な存在であるため、職員と共にご本人を支えていこうという姿勢でいる。		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前から利用されていた床屋の利用やかかりつけ医の通院等、ご家族の協力もあり、関係が途切れないよう支援に努めている。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った利用者同士で散歩や喫茶店へ行ったり、またユニット間を利用者様同士が行きかいながら、関わり合えるよう場面作りの支援をしている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が解除になっても、再度、入所申し込みをしていただき、また、スムーズにご利用いただけるよう経過の把握と必要に応じた支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、注意深く観察することにより、一人ひとりの利用者様の思いを汲み取り、ご家族からの情報を得ることで本人様本位のケアができるよう努めている。		
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やご家族より、生活歴やご本人の価値観の理解に努め、入所生活の中に反映させるよう話し合っている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの身体状況や、生活の様子を記録し、関わる職員が現状を共有し、把握できるように努めている。		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、全利用者様のモニタリングを行い、ケース会議の中では、積極的に意見やアイデアを出し、ご本人やご家族にも相談しながら現状に即した計画を作成している。		
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務交代毎に申し送りの中で利用者様の現状に適したケア方法を話し合い実践している。月に一度行うモニタリングによって、現状に即した計画の見直しを行っている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助や一ヶ月以上の入院による契約延長への配慮等ご本人やご家族の要望・相談には柔軟な対応を行っている。		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区社会福祉協議会の構成メンバーに入れていただき、小学校をはじめ、民生委員や市社協の方々やパイプラインを持つことで行事への参加もしやすくなった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時や新規受診時には、必ず希望の医師を確認している。現状に適した医療が受けられるようご家族や医療機関との連携を密に図っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で心身の状況をしっかり観察し、変調があった際には些細な事でも報告。対応ができるよう近隣施設の看護師とも連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃より病院関係者との良好な関係作りに努めており、入院中の利用者の情報交換や相談、早期退院へのアプローチを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より施設の終末期に向けた方針を説明し、状況に応じてご本人やご家族と話し合いながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、勉強会や蘇生訓練を実施している。いざという時に迅速に対応できるようマニュアルや連絡網を作成し設置している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署の指導の下、火災・避難訓練を実施している。設備点検やコンセントの掃除等、防災意識を持って取り組んでいる。運営推進会議時は地域の協力体制を呼びかけている。		

外部	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃の挨拶や声掛け時には目線を合わせ、丁寧な言葉掛けをしている。入浴や排泄などデリケートな部分には十分に配慮し、出来ない部分のフォローをさりげなく行うよう努めている。		
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る方には起床時、入浴時等の衣服の選択をしてもらっている。必要に応じ、ご家族にも協力していただけるよう連携に努めている。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴等は意思を確認し拒否がある時は、無理強いしない。午睡や居室で過ごされる方には、居室環境を考えながら見守りを行う。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性利用者様には髭剃り等の声掛け、介助を行い、外出時は季節に合った衣服選び等の支援を行う。		
40	(15) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭きを利用者様と共に行い、各テーブルに職員も一緒に、見守り、必要に応じて介助を行う。		
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量と水分量を記録している。必要に応じ摂取状況を介護記録に記載し、職員間で情報の共有をする。栄養不足、偏りを防ぐため、メニューノートに記載し、バランスのとれた食事が提供できるようにしている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い、見守り、一部介助、全介助で行っている。状態によってはウエットティッシュ、スポンジなどを使用している。状態によっては、洗口液も使用している。		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムに合った声掛けを行う。その際、プライバシーに配慮する。要望に応じて、尿器使用夜間も必要に応じて声掛けを行う。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は食物繊維の多いものを提供し、一定量の水分摂取に努めている。定期的な運動では施設内外への散歩の実施を行っている。必要に応じ腹部マッサージ、腹部温罨法を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎回、意志を確認し、拒否時は無理強いしない。できることはご自分でいただき、湯温などに気をつけながら、ゆっくりと入浴していただくよう努めている。入浴剤なども使用している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内環境を整える。日中はカーテンを閉めたり、エアコンで室温調整する。状況に応じて加湿器も使用する。就寝時は寝衣に替えていただく。夜間の定期的な巡視を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬事は必ず二人以上で薬の確認を行い、理解できる方には確認をしてもらっている。処方箋が特定の場所に設置されており、連絡ノートにも変更事項を記載し職員に周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、テーブル拭き等、無理のない程度にお手伝いしてもらっている。日中、一人で過ごす時間や、趣味の時間等を尊重している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節を感じていただけるよう桜、コスモス、紅葉等の見学、年始の初詣、地域の催しもの参加、外食等の支援を定期的に行い、また、ご家族の協力を得て近隣の喫茶店やドライブ等にも出かけておられる。		

グループホーム木曾三川「福寿苑」

	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金に関する不安や不満が生じたり、他利用者様とのトラブルが生じないよう、ご本人、ご家族と話し合い満足いただけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望によ電話をとりついたり、代弁してご家族にお伝えする等、状況に応じた支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節にちなんだ壁紙作りを利用者様と共に行うことにより、季節を感じていただけるよう工夫をしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにあるソファや和室コーナーの畳に座り、気の合った利用者様同士が会話されたり、一人の時間をゆったり過ごしてみえる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れた物で、安心できる馴染みの品(カレンダー・写真等)を持ってきていただくよう、ご本人・ご家族と話している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式D1、2、シートを活用し、残存機能を把握した上で、各々利用者様が安全に安心して、自立した生活が送れるよう工夫している。		